

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大東文化大学
設置者名	学校法人 大東文化学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本文学科	夜・通信	22	—	22	44	13	
	中国文学科	夜・通信			34	56	13	
	英米文学科	夜・通信			14	36	13	
	教育学科	夜・通信			32	54	13	
	書道学科	夜・通信			103	125	13	
	歴史文化学科	夜・通信			22	44	13	
経済学部	社会経済学科	夜・通信	10	30	—	40	13	
	現代経済学科	夜・通信			—	40	13	
外国語学部	中国語学科	夜・通信	22	—	10	32	13	
	英語学科	夜・通信			38	60	13	
	日本語学科	夜・通信			2	24	13	
法学部	法律学科	夜・通信	22	26	—	48	13	
	政治学科	夜・通信			—	48	13	
国際関係学部	国際関係学科	夜・通信	22	42	—	64	13	
	国際文化学科	夜・通信			—	64	13	

経営学部	経営学科	夜・通信	22	—	48	70	13	
環境創造学部※	環境創造学科	夜・通信	22	—	24	46	13	
スポーツ・健康科学部	スポーツ科学科	夜・通信	22	—	50	72	13	
	健康科学科	夜・通信			83	105	13	
	看護学科	夜・通信			56	78	13	
社会学部	社会学科	夜・通信	22	—	22	44	13	
(備考) ※環境創造学部は 2018 年度より学生募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大東文化大学 HP 「『実務経験のある教員等による授業科目』一覧表」 https://www.daito.ac.jp/information/open/hutankeigen/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 (該当なし)
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大東文化大学
設置者名	学校法人大東文化学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大東文化大学 HP 「理事（役員）名簿」 https://www.daito.ac.jp/information/open/hutankeigen/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(前職) 裁判官 (現職) 弁護士	2018.6.30 ～ 2021.6.29	理事長（法人を代表し、業務を総理する）
非常勤	(現職) 地方公共団体の長（市長）	2018.6.30 ～ 2021.6.29	組織運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大東文化大学
設置者名	学校法人 大東文化学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学で開講する全ての授業科目における授業計画(シラバス)については、本学HP「Webシラバス」で公表している。授業計画(シラバス)を公表することは、シラバスが学生の学習を支援するための重要な指針であり、また、個々人の学習への動機づけとなるばかりでなく、本学が掲げるディプロマ・ポリシーを実現するうえでも大きな役割を担うことである。また、シラバスの公表は本学の教育内容を広く社会へ発信するものでもある。</p> <p>シラバス記載項目は以下のとおりである。</p> <p>担当教員名、曜日・時限・開講期、期間、学年、単位、開講キャンパス、概要、到達目標、形態、授業計画、授業外の学習、教科書・参考文献など、成績評価の方法・基準、履修上の注意、連絡先・連絡方法 など</p> <p>シラバス(授業計画)の作成・公表時期については、授業科目開講年度の前年12月上旬に各教員へシラバス執筆依頼を行う。その後、作成されたシラバスについては、各学部においてシラバス記載項目の第三者チェックを行い、3月後半の在学生ガイダンス実施前までに、本学HP上にて公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大東文化大学HP「Webシラバス」</p> <p>https://dbp.mypage.daito.ac.jp/campusweb/top.do</p> <p>※DB PORTAL内メニューの「ゲストとしてWebシラバス閲覧」より検索可。</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各授業科目の授業計画（シラバス）に記載された「成績評価の方法・基準」および本学アセスメント・ポリシー（※）に基づき、厳格かつ適正に単位授与（または履修認定）を実施している。

＜成績評価基準＞ 評価 S：100-90点、判定「合格」
評価 A：89-80点、判定「合格」
評価 B：79-70点、判定「合格」
評価 C：69-60点、判定「合格」
評価 D：59点以下、判定「不合格」
評価 E：対象外、判定「不合格」、出席不良や試験を受けていない等で評価に値しない

※「大東文化大学アセスメント・ポリシー」

本学では、学生が主体的学びを実現し、社会人基礎力、大東学士力、全ての学問に汎用的に適用することのできる基礎教養、自身の選択した学問領域に対する創造的で、卓越した専門知識と技能を獲得した成果を可視化できる教育環境を構築し、教育改善を漸進的に実施することを目的に、全学レベル、教育プログラム（学部学科、研究科専攻）レベル、科目（個々の授業）レベルの3つのレベルにおいて、学生の学修成果の可視化を行う。可視化および評価の方法については、学修意欲の把握（出席状況など）を前提として、学生の入学時から卒業後までを視野に入れることとし、各レベルにおいて評価指標を設定し、得られた結果を恒常的に検討・分析する。

測定・評価は、各レベルにおいて、多面的に行うことを旨とし、各時点・各レベルに以下のような指標を配置する。

1. 全学レベル
4年間における学修成果の到達度を検証する。
 2. 教育プログラム（学部学科、研究科専攻）レベル
学部学科、研究科専攻レベルにおける学修成果の到達度を検証する。
 3. 科目（個々の授業）レベル
科目レベルにおける学修成果の到達度を検証する。
- ※各時点・各レベルの学修成果の評価指標は、下記 HP に掲載する。

(参考)

大東文化大学 HP「アセスメント・ポリシー」

https://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy/file/file_assessment.pdf

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では2016年度入学生(編入学生を除く)からGPAを導入している。これは学修の達成度をより明確に示し、自らの履修に責任を持ち、履修申請した科目を意欲的に学修することを目的としている。</p> <p>GPA算出方法は、履修登録した科目の成績(不合格科目も対象)を4から0までの点数に置き換えて単位数を掛け、その合計を履修総単位数で割った1単位当たりの平均点である。GPA算出の対象科目は、本学で履修登録した全ての卒業要件対象科目(外国人留学生科目も含む)とし、諸資格科目等および本学以外で取得し卒業要件として認定された科目(N評価科目等)については、算出対象外とする。</p> <p>また、当該年度内GPAと入学時からの累積GPAの2種類を算出し、成績通知書に表示する。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大東文化大学 HP「GPAについて」 https://www.daito.ac.jp/campuslife/campus/class_exam/file/file_grade.pdf</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>●卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>本学・各学部学科においては、厳格な成績評価に基づき、基礎教育科目、専門教育科目、全学共通科目の所定の単位を修得し、豊かな教養と確かな専門的知識、高い倫理性を備えていると認定した人に学士の学位を授与する。</p> <p>本学が学位授与にあたって求める能力、見識は下記のようなものである。</p> <p>1. 知識・技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養の基礎となる広範な知識を修得している。 2. 自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門知識・技能を修得し、活用することができる。 <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化社会に貢献できる国際的な視野と感覚、異文化への共感的想像力やコミュニケーション能力をもっている。 2. 国内外における諸課題を発見し、解決策を構想するための思考力や判断力を身に付けている。 3. 自己の意見を適切に表現・伝達できるとともに、背景や価値観の異なる他者の意見に傾聴し、議論や協働により問題解決を行うことができる。 <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって学び続け、国際社会や地域社会の発展に貢献する意欲と能力をもっている。 2. 社会の一員としての強い責任感、使命感、モラルをもち適切に行動できる。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大東文化大学 HP 「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」 https://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy/index.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大東文化大学
設置者名	学校法人大東文化学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.daito.ac.jp/information/open/number/
収支計算書又は損益計算書	https://www.daito.ac.jp/information/open/number/
財産目録	https://www.daito.ac.jp/information/open/number/
事業報告書	https://www.daito.ac.jp/information/open/number/
監事による監査報告(書)	https://www.daito.ac.jp/information/open/number/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:平成31年度事業計画 対象年度:平成31年度/令和元年度)
公表方法: https://www.daito.ac.jp/information/open/number/
中長期計画(名称:DAITO VISION 2023 対象年度:平成26年度~令和5年度)
公表方法: https://www.daito.ac.jp/information/activity/crossing2023/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.daito.ac.jp/information/examine/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部日本文学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要）文学部日本文学科は、日本文学に関する学識を修め、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要）日本文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学）の学位を授与する。 1. 知識・技能 (1) 日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、日本の文学や言語・文化の問題に関して専門的な知見を身につけている。 (2) 日本の文学と日本語に関するさまざまな時代の文献や資料を的確に読解することができる。 (3) 専門的な情報を集めるスキルを修得し、それを活用する能力を身につけている。 (4) 日本語文法や文章表現法に関する基礎的な知識を修得し、口頭または文章で自身の考えを発表するために必要な語彙力・表現力を修得している。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 問題を発見し、解決するために必要な論理的思考力を身につけている。 (2) 専門的な問題に関する自身の考えを、一貫性・体系性を備えた文章で論理的に表現できる。 (3) 各時代の文学作品に関する批評能力や鑑賞力を有している。または、各時代・各地方の言語の特質を理解できる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 他者と協同して、積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする姿勢・意欲を身につけている。 (2) 異文化や異質な他者を尊重し、理解しようとする態度・意欲を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要）日本文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 (1) 日本の文学と言語・文化に関して、体系的・通史的な知識や素養を身につける。「日本文学史概説」「日本語学概説」など。 (2) 古代から近現代にいたる各時代の文献や資料を読解する能力や、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。「日本文学講読」「日本語学講読」、各分野の「特殊講義」など。 (3) 4 年間を一貫する少人数制の演習科目の履修を通して、問題発見・問題解決の能力、論理的思考力、文章表現力、口頭発表力、情報検索・情報分析の能力を養う。また、共通の課題に取り組むことを通して、自身と価値観や見解を異にする他者と向き合い、いかに協働するかを学んでいく。「日本文学基礎演習」「日本文学演習」、各分野の「演習」（ゼミナール）。 (4) これまで修得した知識や技能、文学作品を批評・鑑賞する能力や言語の特質を理解する力をさらに発展・応用させつつ、論文という成果にまとめ上げる。「卒業論文」。 (5) 外国語科目や比較文学・文化関連の科目、全学共通科目の履修を通して、幅広い知識や素養を身につけるとともに、異文化に対する理解を深める。「比較文学・文化特殊講義」

<p>「異文化コミュニケーション論」「基礎教育科目」（外国語）など。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 知識の教授を目的とする教育内容に関しては、講義を中心とする授業形態をとるとともに、問題発見・問題解決の能力、技能修得などを目的とする教育内容に関しては、演習形式の授業形態をとる。</p> <p>(2) 基礎から発展へと体系的な学習が可能となるように、科目を配置する。</p> <p>(3) 初年次の日本文学基礎演習においては、入学以前の国語力の不足を補いつつ、文学研究の方法を学ぶ導入教育を行う。</p> <p>(4) 1年次から4年次まで一貫して少人数の演習科目を配置し、教員や受講生との討議を中心としたインタラクティブな教育を実践する。</p> <p>(5) 科目として「卒業論文」の時間を設け、主題や構想の検討などから文章添削に至るまで、教員（原則として3・4年連年演習の担当教員）と協議し、その指導の下に取り組んでいく。</p> <p>(6) 比較文学・文化の科目やゼミナールを用意するとともに、留学制度（協定校留学・奨学金派遣留学）の積極的な活用を推奨して、グローバルな視点から日本の文学と文化を見直すよう促す。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力に関しては、卒業要件達成状況、すなわち規定の単位数を取得したかどうかによって判定する。</p> <p>(2) 各科目に関しては、シラバスを通して成績評価基準を明示し、それに基づいて厳正な評価を行う。</p> <p>(3) GPA制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。</p> <p>(4) 3・4年次連年の演習科目は、テーマや課題に対する受講者の取り組み方、問題発見・問題解決の能力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。</p> <p>(5) 卒業論文は、論文内容を中心に、それまでの勉学の成果や態度などを多角的に検討して評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）日本文学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 日本文学科の専門科目を学ぶ上で必要な基礎学力を有する者。特に、現代文と古文のテキストを読み込み、主体的な解釈を施すことができる知識と理解力を身につけている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 論理的な思考力を身につけ、自身の考えを的確に表現できると同時に、他者との対話の中で自分の主張を批判的に振り返り、さらに深めようとすることができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 古代から現代にいたる日本の文学や言語、文化に深い関心を持ち、体系的かつ専門的な知識の習得に積極的に取り組み、その学習を通じて高い教養と豊かな人間性をはぐくもうとする意欲がある。</p> <p>(2) 創造的思考とコミュニケーション能力を発揮し、他者と協力して積極的に問題に取り組み、その解決をはかろうとする意欲がある。</p>
<p>学部等名 文学部中国文学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）文学部中国文学科は、中国古典学に関する学識を修め、中国文化圏に対する深い洞察力と国際感覚を有する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>

(概要) 中国文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に卒業の認定を行い、学士(中国文学)の学位を授与する。

1. 知識・技能

(1) 文学作品、歴史記述、哲学思想の原書を訓読で学ぶことで、漢字・漢語や中国文化への理解を深め、日本語中での漢字・漢語の運用能力を高め、思考の幅を広めるとともに豊かな人間性を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 研究対象として選択した分野の特徴を捉え、自ら課題を設定し、考察を加えることができる。

(2) 文献から得た知識を実践に利用することができる。

(3) 先行研究を批判的に継承し、自らの考えを口頭や文章で的確に伝えることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 中国学で学んだ学識を実践的な力へと高めることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf)

中国文学科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成している。

1. 教育内容

(1) 初年次には必修科目「漢文入門」において文献読解に必要なスキルを学ぶ。

(2) 初年次には必修科目「中国哲学基礎演習 1(論語)」、「中国文学基礎演習 1(唐詩)」、「中国語学基礎演習 1・2」、「中国語入門」において読解力、基礎知識、語学力を養成する。

(3) 2年次には必修科目「中国哲学基礎演習 2(孟子)」、「中国文学基礎演習 2(十八史略)」、「中国語学基礎演習 3・4」、「中国語学基礎演習」において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす。

(4) 3年次以降は選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミを一つ選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える。

2. 教育方法

(1) 1・2年次の必修科目ではクラスに分けて履修者数の偏りを無くし、主体的な学びを促す。

(2) 1・2年次の必修科目で文学、哲学、歴史の文献を読み、それぞれの文献の特徴を理解するとともに広い知識と各分野の読解力を身につける。

(3) 3年次以降の特別演習、卒論指導では少人数ゼミの履修を必修化し、課題の設定から卒業論文作成まで指導する。

3. 評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、卒業要件達成状況、単位取得状況、GPAにより測定する。

(2) 4年間の総括的学習成果として、口頭試問を伴う卒業論文の評価により測定する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf)

(概要)

中国文学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

(1) 入学後の修学に必要な基礎学力を有しているもの。特に高等学校で現国、古典に関して所定の課程を修得している。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 物事を論理的に考察・判断し、自らの考えを的確な言葉で表現できる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 中国文化及びその日本への影響に興味を持ち、他者と協働して積極的に学ぶ意欲があ

る。
学部等名 文学部英米文学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要）文学部英米文学科は、英語圏の文学・語学・文化に関する学識を修め、国際語としての英語の基盤の上に立った広い見識を持つ人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要）英米文学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（英米文学）の学位を授与する。
<p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 現代社会におけるコミュニケーションの手段として、他者との文化的差異に臆することなく交流を行うための、総合的かつ基礎的な英語能力。</p> <p>(2) 文化や慣習の隔たりを越えて、世界に生きる様々な人々と意見の交換を行うための基礎となる、「聞くこと」「話すこと」に関わる英語の運用能力。</p> <p>(3) 英語という言語を様々な側面から複眼的、多面的にとらえ、その成り立ちと機能をより正確に理解する能力。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 言語としての英語の運用能力に留まらず、英語によって創り上げられた文学と文化に関する知識を持ち、その上で、文学および文化に対する自分自身の考えを紡ぎ出す能力。</p> <p>(2) 社会への貢献を目指すなかで、与えられた課題や問題に関して、論理的に思考し、それらの解決を可能にするための判断力と洞察力。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 英語に関わる基礎的な知識、そして専門的な知識を基盤として、自身の適性を活かし、社会に貢献する方法を発見する能力。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
英米文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を実施する。
<p>1. 教育内容</p> <p>(1) 英語の実用的な運用能力を高め、国際的な場面で様々な文化的背景の人々とも、主体性・協調性を持って交流することのできる国際感覚を培う。「Freshman Seminar」「Speaking/Writing/Reading English」「英語文化コミュニケーション演習」など。</p> <p>(2) 英米を中心とする英語圏の文学・文化・歴史・社会への知識を深め、その特徴と多様性の理解を目指す。「英語の小説／詩／演劇を味わう」「英米児童文学を味わう」「英文学入門」「米文学入門」「イギリス文化論」「アメリカ文化論」など。</p> <p>(3) 英語の様々な側面をより複眼的、多面的にとらえ、その成り立ちと機能をより正確に理解できるようにする。「英語学入門」「英語の音声」「英語の歴史」「言語のしくみ」「英文法論」など。</p> <p>(4) 現代社会における文学・文化の価値の展開と発展について理解することで、東洋文化と西洋文化との差異や民族間における文化の差異を越えた交流を行うための知見を深める。「東西文化交流論」「比較文化論演習」など。</p> <p>(5) 英語・英語圏文学・文化に関し、他者の様々な意見を参照し、それを基礎として、自分自身の意見や思考を論理的に構築する力を養う。「ゼミナール」「卒業論文」など。</p> <p>(6) 英語以外のヨーロッパ諸言語また他の地域の外国語を身に付ける。「フランス語基礎」「ドイツ語基礎」「スペイン語基礎」「中国語1」など。</p> <p>(7) 英米文学、英語学、英語圏文化以外の人文学、また社会科学、自然科学に触れることにより、大学生として当然身に付けておかななくてはならない教養と知識および知的好奇心を養う。それと同時に、他分野と専門分野の関連性を見出すことによってさらに深い洞察力を身に付ける。「哲学 AB」「芸術学 AB」「社会学 AB」「経済学 AB」「数学 AB」「生物学 AB」など。</p>

2. 教育方法

- (1) 初年次教育においては、少人数のゼミ形式の授業における実践を通じて、発表の仕方、発表資料の書き方、レポートの書き方、ノートの取り方、図書館活用方法など、大学での学びの基礎を身に付ける。
- (2) 2年次において「英文学」「米文学」「英語学」を講義形式で導入し、専門科目に関する広範な知識を身に付ける。
- (3) 1, 2年次の「英語の小説／詩／演劇／児童文学を味わう」の科目では、英米文学の様々なジャンルの具体的作品に原文で触れながら、ディスカッション形式で文学作品の持つ内容、形式について学ぶ。
- (4) 3年次には英文学、米文学、英語学、英語圏文化の分野に関する少人数制のゼミナールを、学生同士の討論また学生による発表を含むアクティブ・ラーニングを取り入れた形式で運営する。
- (5) 4年次の卒業論文では、教員と卒論生との間の一対一指導、およびゼミ形式で、テーマの確定、資料の分析、論文執筆を進める。

3. 評価方法

- (1) ディプロマ・ポリシーで掲げられた能力の形成的な評価として、英米文学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、卒業論文提出者数等の結果によって測定するものとする。
- (2) 語学検定試験や教育職員採用試験などの学外試験の受験者に関しては、当該試験の結果も4年間の総合的学修成果として、カリキュラムの適切性を測定する判断基準とする。
- (3) 学生達の就職活動の結果を鑑み、学生達がカリキュラムに基づいた学習内容を就職活動に活かせたかどうかを確認する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

（概要）英米文学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 英語圏の言語、文学、文化を学ぶ上で、十分な基礎学力を身につけている。
- (2) 高校で培った基礎学力に基づき、英語力や知識、教養を深めることができる。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 英語圏の言語、文学、文化が現代社会において持ちうる重要性を発見し、洞察力を深めることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 英米文学科で学んだ英語力や知識、教養を実践的に活用する意欲がある。

学部等名 文学部教育学科

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

（概要）文学部教育学科は、教育学に関する学識を修め、教育に関する知識・技能について、理論的実践的に優れた能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

（概要）教育学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下のような能力を備えた学生に卒業を認定し、学士(教育学)の学位を授与する。

1. 知識・技能

- (1) 本学科の教育学研究の柱である教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域に関して深い学識と適確な技能を修得している。
- (2) 幼稚園・小学校の教員、保育士、その他の教育者・発達援助者として、子どもを含む人間が学び発達していく理論および実践活動について、専門的な識見を修得している。
- (3) 教育・発達援助の専門家として、困難や課題を抱えている対象に対して、条件・状況に応じた適確・創造的な学習指導・生活指導や養育活動を組み立てる実践的スキルを習得している。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 教育の専門家として、また現代社会の市民として、教育的課題・社会的課題の解決のために、情報リテラシー・柔軟な発想力・豊かな感性を身につけ、多様な価値観・文化を持つ人々と協同で問題を探求し活動することができる。

(2) 自らの学習・探求した成果を、報告書や論文、あるいは芸術作品としての的確に表現し、他者・社会と共有できる能力を身につけている。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 日本社会や国際社会において生じている子どもを含む人間の多様な在り方・生き方に関わる諸問題について、広く関心を持ち、学問的に探求することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

（概要）教育学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) 1, 2 年次には、広く深い教養を身につけるために、学部・学科を越えた「全学共通科目」から自然・社会・人文諸科学の各科目、「基礎教育科目」から外国語科目・情報処理科目等を学ぶ。さらに教育学研究の基礎力を養い問題意識を耕すために「教育学科入門科目」としての「基礎演習」を履修する。

(2) 1 年次から 4 年次を通じて「教育学科専門基礎科目」、「教育学科専門科目」、「教育学科演習科目」を学ぶ。それらは教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域を柱として、多様性と系統性を重視して教育課程が組まれている。とりわけ、3, 4 年次で全員が履修する教育学演習（ゼミナール）では、少人数の学習集団の中で専門的テーマを深く研究していく。

(3) 1 年次から 4 年次を通じて、幼稚園・小学校の教員免許、保育士資格が取得できる教育課程が用意されているが、教育学の知見に裏づけられた免許・資格となるよう、理論と実践のバランスを考慮した教育課程が組まれている。

2. 教育方法

(1) 理論的な学びが実践に結びつけられるように、ディスカッションやグループワーク、実験、校外フィールドワークを含む多様な授業形態を取り入れ、教育や社会の現代的諸課題を主体的・協同的・創造的に探究することをめざす。

(2) 全員が教育学演習（ゼミナール）を履修することによって、集団的研究・実践活動を経験し、その成果をゼミ論文や卒業論文として発表する。

(3) 1 年次から 4 年次を通じて、問題関心や進路に応じた個別的指導を重視する。

3. 評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、教育学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA 等の結果によって測定するものとする。

(2) 4 年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文等の評価を行う。

(3) 教員採用試験等の受験者に関しては、4 年間の学修成果として、試験結果によって測定するものとする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

<p>(概要) 教育学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れます。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 本学科の教育学研究の柱である教育学・心理学・福祉学・芸術学を学ぶ上で十分な基礎知識・技能を修得している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 教育的課題・社会的課題に関して多面的かつ論理的に考察することができる。</p> <p>(2) 自らの学習・探求した成果、およびそれに基づく自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 幼稚園、小学校の教師や保育士、その他の教育・養育の専門家を目指す意欲をもっている。また、教員・保育士・福祉職志望ではなくても教育学や心理学・福祉学・芸術学について研究する意欲を持っている。そして何より人間が学び育つこと、それを援助する営みについて関心・問題意識を持っている。</p> <p>(2) 幼稚園、小学校教師、保育士、その他の教育・養育の専門家として確かな力を持って活躍できる実践的な能力を身につけるための学習活動に積極的である。また、多様な他者と協力しあって活動することに積極的である。</p>
<p>学部等名 文学部書道学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>(概要) 文学部書道学科は、書道学に関する学識を修め、書表現および書学に秀でた人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>書道学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（書道学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 漢字・仮名の文字文化を、周辺の諸領域とともに理解し考察することができる。</p> <p>(2) 書学と書作の両面においてバランスのとれた基礎力と応用力を身につけている。</p> <p>(3) 豊かで幅広い教養と高い倫理性を身につけている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 芸術表現としての「書」の歴史を踏まえて、高い表現技法と鑑賞する力を身につけている。</p> <p>(2) 書の素晴らしさを感じ取り、その感動を人に伝え指導することができる。</p> <p>(3) グローバルな視野で異文化を理解し、多文化共生社会を推進する能力を身につけている。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 現代社会における「書」の文化的役割や機能を主体的に担い、推進する能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>書道学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 書道学科は、書学と書作からなる書道学を体系的に学ぶために書学と書作の科目の連携を図り、その基礎力から応用力までを身につける。</p> <p>(2) 外国語科目においては、1年次の必修科目「中国語学基礎演習 1・2」と2年次の必修科目「中国語学基礎演習 3・4」の履修を通して、書道と関連の深い中国語学を習得し、語学力の養成を図るとともに異文化に対する理解を深める。</p> <p>(3) 全学共通科目においては、「文学 A・B」「歴史学 A・B」「情報科学 A・B」といった科目の履修を通して、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。</p>

<p>(4) 初年次においては、必修科目である「書道学基礎演習」の履修を通して、書道学の学習に必要な基礎力を養成する。</p> <p>(5) 必修科目群では、初年次において「楷書法 1（書写を含む）」「行草書法 1（書写を含む）」「仮名書法 1（書写を含む）」といった科目の履修を通して、漢字・仮名等の書表現の基礎を修得する。また「日本書道史通論」「中国書道史通論」を履修することにより書道史の基礎力を養成する。さらに 2 年次では「書学基礎研究 1・2」といった科目を履修することを通して書学の基礎を幅広く修得する。</p> <p>(6) 選択科目群では、2 年次において「漢字仮名交じりの書法 1」「篆刻法」といった科目の履修を通して漢字仮名交じり・篆刻等の書表現をも修得する。また 2 年次の「書跡文化財学概説」や 3 年次の「書論講読」等により書論・書跡等の研究能力を育成する。</p> <p>(7) 選択科目群では、「書道美学論」「中国美術史」「日本美術史」「日本文学史概説 A・B」といった科目の履修を通して美学・美術史や文学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察できるようにする。</p> <p>(8) 選択科目群では、「書道文化演習 1」といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに「書道文化演習 2」の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める。</p> <p>(9) 各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるように、3 年次よりすべての学生が書学ゼミと書作ゼミのダブルゼミを受講する他校に類を見ない教育課程を整備している。</p> <p>(10) 4 学年においては、それまでに習得した能力を発展・応用させて「卒業論文」と「卒業制作」としてまとめる。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。</p> <p>(2) 3 年次より書学ゼミ 1、書作ゼミ 1 の 2 つのゼミの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p>(3) 3 学年では、海外での体験学習を含む授業の受講を積極的に推奨している。</p> <p>(4) ラーニングポートフォリオを活用し、自己評価と他者評価を踏まえた、学びの振り返りを促していく。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA 等の結果によって測定するものとする。</p> <p>(2) 学位授与方針で掲げられた形勢的評価として、毎学期カリキュラムルーブリックを活用して、成績不振者に対しては教員による個人的面談を実施する。</p> <p>(3) 4 年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文・卒業制作の評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）書道学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 書道を専門的に学ぶのに必要な基礎学力を身につけている。</p> <p>(2) 書作を専門的に学ぶのに必要な基礎的な技法を身につけている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 書が大好きで、強い意志と高い目標を持って努力することができる。</p> <p>(2) 向学心の旺盛な人で、芸術文化に対する愛好心を身につけている。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 自ら主体的に学ぶとともに、他者とも積極的にかかわることができる。</p>
<p>学部等名 文学部歴史文化学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>

<p>(概要) 文学部歴史文化学科は、歴史・文化に関する学識を修め、世界の中の日本を自覚し、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>歴史文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（歴史文化学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 人文分野を始めとして、社会・自然分野に及ぶ確かな知性と鋭い感性を備えた、豊かな人間性を陶冶することができる。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 世界、日本、地域の歴史・文化に関する豊富な学識を修め、歴史的思考力を縦横に駆使して、それを行動の拠り所とすることができる。</p> <p>(2) 国際化が進む社会において、異なる立場にある者とも相互理解の上に立って、十分なコミュニケーションを取りながら、協働することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 現代の多様な課題の発見・解決に主体的に取り組み、歴史文化学科で修得した専門性を総合して、新たな価値の創造に柔軟に活かすことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>歴史文化学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) まず、1年次の専門必修科目である「歴史文化学入門 A・B」において、歴史文化学全般の導入教育を行い、1年次からの基礎的訓練の動機づけを図る。同時に、専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を周知し、専門支援科目で各コースの専門教育を支援する専門的な言語運用能力の養成を図ることで、2年次からのコース分けに備える。</p> <p>(2) さらに、1年次から2年次にかけては、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる多様な一般的学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。</p> <p>(3) そして、2年次には、専門教育として1年次に続いて専門支援科目の学修を深めると同時に、専門必修科目の「基礎演習」において、それぞれの関心に応じた演習科目を配当する。講義科目としても、1年次からの専門基礎科目に加え、コース分けが行われた後なので、学生が選択したコースに関する様々な専門的領域の研究成果を提示する研究科目を用意する。</p> <p>(4) 3年次では、2年次までの基礎的教育の学習成果を発展させて、専門科目を学ぶ。なかでも、専門必修科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。このように、主体性、創造性や協働性を養うために演習を重視する本学科の立場から、3・4年次には他にも、各コース独自の演習・実習科目を提供する。</p> <p>(5) 3・4年次では、各コースの発展的内容を持つ多様な講義科目を設けて、学生の専門領域の学識を深めるとともに、他領域との交流・比較も行うことで、アナロジーやシナジー効果などによる、さらなる発展を図る。このように、本学科は2年次という比較的早い時期に各専門コースに分かれるという特徴を持つが、同時に3・4年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴もあわせ持っている。</p> <p>(6) 4年次では、4年間の学問研究の集大成として、「卒業研究」が行われる。各自が指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的な研究テーマの深化のために活用していく。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、意欲・関心、課題発見・解決、及び技能の習得を目的とする教育内容について</p>

<p>は、演習形式による授業形態を採ることとし、また理論的知識や能力を実践に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式による授業形態を採用する。</p> <p>(2) 基礎から発展へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、特に専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) あらかじめ各授業における到達目標やその目標を達成するための授業方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づいて厳格な評価を行う。</p> <p>(2) GPA 制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。</p> <p>(3) 4年間の総括的な学修成果として、卒業研究の評価を行う</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）歴史文化学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 歴史文化学科のカリキュラムはもとより、大学教育それ自体に対応できる知識（基礎学力）を有するとともに、入学後も学修を継続していくための基本的な技能を習得している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 歴史に対する強い興味と関心を抱き、社会に対する認識を深め、これを卒業後に社会人として具体的に活かしていくための方策を考えていくことができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 大学生活を通じて、2に掲げた内容を実現していくため、自ら積極的に他者とかわりながら、柔軟かつ積極的にこれに取り組むことができる。</p>

<p>学部等名 経済学部社会経済学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）経済学部社会経済学科は、経済学および経済に関連する諸領域についての理論と歴史・現状分析の手法を学修し、複雑で多様な社会の諸相を包括的な視点で考察、分析する能力を備えた人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>社会経済学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（経済学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 経済に関する幅広い知識が身につけている。</p> <p>(2) 国際経済の諸分野、日本を含む各国の歴史・経済事情に関する専門的知識と理解力を持っている。</p> <p>(3) 豊かな人間性・グローバルな視野を支える教養・語学力を持っている。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>(1) 経済社会における様々な問題について、歴史的・国際的な視点から包括的に考察することができる。</p> <p>3. 関心・意欲</p> <p>(1) 社会の状況や動向に関心を持ち、積極的に知ろうとする意欲がある。</p> <p>4. 態度</p> <p>(1) 自己の文化への認識を持ちつつ、様々な価値観を持った異文化社会を理解・尊重する態度が身につけている。</p> <p>5. 技能・表現</p> <p>(1) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを的確に伝え、協働して問題解決にあたることができ</p>

る。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>社会経済学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 経済に関する知識・分析手法を基礎から着実に修得できるよう、「経済学の基礎」「現代日本経済」「現代世界経済」「経済データ分析入門」(1年次)、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」(2年次)などを必修・選択必修科目とする。</p> <p>(2) 国内外の経済に関する幅広い知見が身につくよう、国際経済、地域経済、経済史、経済思想、公共政策等の分野において、選択必修科目を多く配置する。</p> <p>(3) 幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける。英語・中国語科目の選択必修科目を多く設置するとともに外部語学検定（TOEIC®/TOEFL®など）の対策のための外国語特殊講座および特別演習なども整備する。</p> <p>(4) 学生の主体性・協調性・表現力が涵養されるよう、「基礎演習」(1年次)、「専門演習」「一般演習」(2～3年次)、「卒業研究」(4年次)など、学部共通の演習科目を設置する。</p> <p>(5) 社会に対する幅広い関心を持つよう、公共政策・産業事情等の実社会にかかわる専門科目、法学・産業心理学等の隣接領域科目、キャリア特別講座などを充実させる。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 外国語科目、1年次必修科目(「基礎演習」等)を中心にクラス指定による少人数編成を行い、学生の着実な理解を促す。</p> <p>(2) 1年～4年次まで演習科目を整備し、教員・学生間のインタラクティブな教育を実施する。</p> <p>(3) 学生が学修成果を発表できる機会を提供する。</p> <p>(4) 社会・現代経済の両学科間の相互履修可能性を高めた教育課程編成を行う。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価は、経済学部履修規程に定める単位取得状況を含め、卒業要件を達成しているかどうかによって判定する。</p> <p>(2) 進級判定制度（2年次修了時点で、3年次以降の発展的科目を履修するための基礎レベルが習得できているかどうかを判定する）、個別面談（1年次から4年次の各学年において、科目履修状況に応じて学習行動を確認する）などによって学習達成度を判定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>(概要) 社会経済学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 経済学を学ぶのに十分な基礎学力を持っている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 身の回りの様々な問題について、論理的かつ多面的に考察することができる。</p> <p>(2) 自分の考えを自身の言葉で表現し、他人に伝えることができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 教職員や友人など、他者との関わりを大切にし、良い人間関係を築くよう努めている。</p> <p>(2) 過去・現在・未来の社会の動向に関心を持ち、主体的に勉学に励む意欲がある。</p> <p>(3) 多様な文化への関心を持ち、積極的に対話しようとする意欲がある。</p> <p>(4) 将来、経済学部で学んだ知識や手法を役立てられる職業に就きたいと考えている。</p>
<p>学部等名 経済学部現代経済学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>(概要) 経済学部現代経済学科は、経済学および経済に関連する諸領域についての理論と数理・計量分析の手法を学修し、現実の経済的諸問題についての具体的解決策を見出す能</p>

力を備えた人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
現代経済学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（経済学）の学位を授与する。 1. 知識・理解 (1) 経済に関する幅広い知識が身についている。 (2) 経済社会における各種のデータを収集・分析する能力が身についている。 (3) 豊かな人間性・グローバルな視野を支える教養・語学力を持っている。 2. 思考・判断 (1) 経済社会における様々な問題について、経済学の知識と手法を用いて数量的に考察することができる。 3. 関心・意欲 (1) 社会の状況や動向に関心を持ち、積極的に知ろうとする意欲を持っている。 4. 態度 (1) 変化する社会のなかでいち早く問題を発見し、合理的な解決方法を見出そうとする姿勢が身についている。 5. 技能・表現 (1) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを的確に伝え、協働して問題解決にあたることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
現代経済学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 (1) 経済に関する知識・分析手法を基礎から着実に修得できるよう、「経済学の基礎」「現代日本経済」「現代世界経済」「経済データ分析入門」（1年次）、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」（2年次）などを必修・選択必修科目とする。 (2) 数量的手法に裏づけられた情報分析・問題解決能力が身につくよう、「入門数理」「経済数学」（1年次）、「経済データ分析」（2年次）、「計量経済学」（3年次）などを必修・選択必修科目として設置するとともに、金融論、産業組織論、情報の経済学、経済会計等の分野において、選択必修科目を多く配置する。 (3) 幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける。 (4) 学生の主体性・協調性・表現力が涵養されるよう、「基礎演習」（1年次）、「専門演習」「一般演習」（2～3年次）、「卒業研究」（4年次）など、学部共通の演習科目を設置する。 (5) 社会に対する幅広い関心を持つよう、公共政策・産業事情等の実社会にかかわる専門科目、法学・産業心理学等の隣接領域科目、キャリア特別講座などを充実させる。 2. 教育方法 (1) 外国語科目、1年次必修科目（「基礎演習」「入門数理」「経済データ分析入門」等）を中心にクラス指定による少人数編成を行い、学生の着実な理解を促す。 (2) 1年～4年次まで演習科目を整備し、教員・学生間のインタラクティブな教育を実施する。 (3) 学生が学修成果を発表できる機会を提供する。 (4) 社会・現代経済の両学科間の相互履修可能性を高めた教育課程編成を行う。 3. 評価方法 (1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価は、経済学部履修規程に定める単位取得状況を含め、卒業要件を達成しているかどうかによって判定する。 (2) 進級判定制度（2年次修了時点で、3年次以降の発展的科目を履修するための基礎レベルが習得できているかどうかを判定する）、個別面談（1年次から4年次の各学年において

て、科目履修状況に応じて学習 行動を確認する) などによって学習達成度を判定する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要） 現代経済学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1. 知識・技能 (1) 経済学を学ぶのに十分な基礎学力を持っている。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 身の回りの様々な問題について、論理的かつ体系的に考察することができる。 (2) 自分の考えを自身の言葉で表現し、他人に伝えることができる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 教職員や友人など、他者との関わりを大切にし、良い人間関係を築くよう努めている。 (2) 過去・現在・未来の社会の動向に関心を持ち、主体的に勉学に励む意欲がある。 (3) 経済社会における様々な問題について、数量的に考察する意欲がある。 (4) 将来、経済学部で学んだ知識や手法を役立てられる職業に就きたいと考えている。

学部等名 外国語学部中国語学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
（概要）外国語学部中国語学科は、中国語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
中国語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（中国語学）の学位を授与する。 1. 知識・技能 (1) 中国語で専門分野に関する内容について議論することができる程度の運用能力を修得している。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、歴史等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表する能力を修得している。 (2) IT スキルに関する知識を駆使して、必要な情報を収集・分析し、結論を導き出す能力を修得している。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、歴史等に関する知識および中国語の表現力を修得した後も研鑽を続け、社会の変化に適応し、社会に貢献できる人材であり得る。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
中国語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 (1) 1、2年次にはクラス担任制による責任を持った指導を行う。2年次より「中国語・社会（ビジネス）コース」と「中国語・言語（通訳翻訳）コース」に分かれ、前者のコースにおいては現代の中国を理解し中国語をビジネスに活用できる能力を修得させ、後者のコースでは中国語を深く掘り下げて学ぶことで、通訳翻訳のできる能力を修得させる。 (2) いずれのコースにおいても、中国語ネイティブスピーカーの指導により、中国語の読む・書く・聞く・話す能力を確実に修得させる。それと同時に日中関係を視野に入れながら、日中経済動向、日中貿易関係および中国と関係の深い華語圏の社会文化に関する知識を修得させる。

<p>(3) 外国語科目としては1年次の英語を必修科目とし、2年次の英語は選択科目とする。全学共通科目のうち12単位を卒業に必要な選択必修科目とする。</p> <p>(4) 受身の態度ではなく、自ら積極的に学ぶ姿勢を養うことで、卒業後も絶えずスキルアップができる能力・技術・態度を修得させる。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 3、4年次には1、2年次に修得した基礎の上に、中国語の文献を深く読み込み、理解し、自分の考えをまとめた後は、それを中国語で表現できる能力を高めるための科目群を置く。</p> <p>(2) 3、4年次には、さらにゼミ教員による卒業研究指導により、情報を的確に収集し、集めた情報を正確に分析し、それをまとめて報告・討論できる能力と技術を修得させる。</p> <p>(3) 中国・台湾における短期留学（研修）や長期留学に参加することにより、中国語の実践的な語学力を向上させ、異文化理解に関する知識を修得させる。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、中国語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。</p> <p>(2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価と比較して、その評価に届かない学生については、教員による個人面談を実施する。</p> <p>(3) ゼミを選択した学生については、4年間の総括的な学修成果として、ゼミ教員による卒業論文あるいはそれに代わるものの評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要） 中国語学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 高等学校卒業レベルの十分な学力を有している。</p> <p>(2) 中国語を学ぶ意欲と基礎学力を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 中国の言語、文化、娯楽、歴史、政治、経済について興味があり、そうした事柄についてより深く学びたいと考えている。</p> <p>(2) 単なる知識の修得にとどまらず、その知識にもとづいてより深く考え、自分の考えをまとめ、発表する能力を得たいと考えている。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 将来は中国語を使う職業につきたいと考えている。</p> <p>(2) すでに一定の中国語能力を有しているが、その中国語の運用能力をさらに向上させたいと考えている。</p>
<p>学部等名 外国語学部英語学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）外国語学部英語学科は、英語学に加え、ドイツ語学、フランス語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>英語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（英語学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 日常的事実がらについて、目標言語（英語、英語とドイツ語、英語とフランス語）で話される内容を理解し、また対話することができる。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 社会的・世界的なことがらについて、目標言語（英語、英語とドイツ語、英語とフランス語）によるメディアからの情報を正確かつ批判的に読み取り、あるいは聞き取り、それについて自分の考えを述べ、また文章にまとめることができる。</p>

<p>(2) 英語学および関連領域、専攻する地域の文化、社会、歴史等における幅広い知識を有し、問題意識を持って自らの視点から意見を述べることができる。</p> <p>(3) IT スキルを駆使してデータを収集、分析し、結論を導いて発表することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 現在の知識をもとに新しい情報を常に収集し学び続けることで、急激に変わりゆく現代社会に有為に貢献する構成員となる高い資質を有する</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>英語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 英語コースおよびヨーロッパ2言語コースの2コース制をとる。英語コースは英語を、ヨーロッパ2言語コースは英語とドイツ語または英語とフランス語を主たる目標言語とする。</p> <p>(2) いずれの目標言語においても、日常的な事柄について対話するスキルを向上させる授業科目を置く。</p> <p>(3) いずれの目標言語においても、社会的な事柄、グローバルイシューについて語り、また書く授業科目を置く。</p> <p>(4) 英語学およびその関連領域、専攻する地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統だった科目群を置く。</p> <p>(5) 情報を収集し、分析し、発表するための IT スキルを養成する科目群を置く。</p> <p>(6) 自分の力で情報を収集・分析し結論を導き出して発表するスキルを養う、ゼミナールを配する。</p> <p>(7) 学問分野で分類された基本科目、学際的な課題（テーマ）科目、教職資格専門科目からなる全学共通科目を置く。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する</p> <p>(2) 1 年次より 4 年次まで、少人数のゼミナールの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p>(3) 海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の修得度合いを、英語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって形成的に測定する</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>英語学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 高等学校卒業レベルの十分な学力を有している。</p> <p>(2) 英語の運用能力をさらに向上させたいと考えている。</p> <p>(3) 英語という言語および関連する分野について、学問としてさらに深く学びたいと考えている。</p> <p>(4) ドイツ語あるいはフランス語を学び、またドイツ語圏やフランス語圏などのヨーロッパ文化について学びたいと考えている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 現代社会の諸相について問題意識を持ち、外国語を通じてそれらについてより深く学びたいと考えている。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 異文化体験・異文化理解を通じて自分自身のものの見方を広げ、また深めたいと考えて</p>

<p>いる。</p> <p>(2) 将来、英語、ドイツ語、フランス語の能力を活かした職業に就きたいと考えている。</p>
<p>学部等名 外国語学部日本語学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>外国語学部日本語学科は、日本語学に関する学識を修め、幅広い教養と国際的視野に立脚した職業能力を有する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p> <p>日本語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本語学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 母語としての日本語、あるいは、第二言語・外国語としての日本語の高度な運用能力を基礎として、国際社会で活躍できる幅広い教養と知識を修得している。</p> <p>(2) 日本語学の専門的な知識をもとに、日本語をより客観的に、より深く理解することができる。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 日本語学・日本語教育学の専門的な知識を持ち、語学・異文化理解等の能力を用いて、専門分野に関して議論することができる。</p> <p>(2) 日本の文化・社会・歴史等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表する能力を修得している。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 日本語学・日本語教育の知を実践の力へと高めることができる。</p> <p>(2) 日本語学・日本語教育の知をもって地域社会や国際社会のニーズに応えることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>日本語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 全学共通科目においては、基本科目の ABCD の 4 系列の履修を通して、広く一般的な教養を身につけさせる。</p> <p>(2) 基礎教育科目の選択科目「キャリア・デザイン」によりキャリア教育を行う。</p> <p>(3) 初年次においては、必修の基礎教育科目で、日本語の基礎的運用能力を前提として専門的な研究に入るためのスタディスキルや IT スキルを修得させる。</p> <p>(4) 専門教育科目では、日本語学、言語学、日本語教育学関連の必修科目および語学の選択必修科目の学修を通じて、日本語学、言語学、日本語教育学、語学、異文化理解等の能力を修得させる。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 日本語に加えて複数の外国語を学ばせることによって、日本語と他言語との比較の視点や、日本語教育上必要な学習者の母語についての知識を修得させる。</p> <p>(2) 3・4 年次においては、日本語学、言語学、日本語教育学、日本言語文化学など、学科カリキュラムに対応した少人数のゼミである専門演習で、活発な議論や卒業論文の執筆を行うことにより、特定の課題について問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表する能力を修得させる。</p> <p>(3) 日本語の運用能力を高めるための科目の学修により、社会人として仕事をするうえでの強みとなる実務的かつ高度な日本語力を修得させる。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、日本語学科における卒業要件</p>

達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
(2) 単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf)

（概要）

日本語学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 日本語学に対する深い関心と、それを専門的に学ぶのに十分な基礎学力を持っている。
- (2) 日本語について専門的に学ぶための基礎となる確かな日本語力を持っている。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 日本語や日本の文化を世界の言語・文化の中で相対化し、客観的に見ることのできるだけの批判的な思考力や判断力を持ち、その思考や判断を的確に表現できる。
- (2) 先入観や偏見にとらわれず、広い視野から外国文化に触れ、それをありのままに理解できる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 日本語や日本の文化を深く学ぶとともに、外国語・外国文化にも関心を抱き、異文化交流に積極的に参加する意欲を持っている。
- (2) 日本語教師・国語教師のみならず、本学科で修得した能力と知識を生かして、広く世界と日本の中で活躍できる職業につきたいと考えている。
- (3) 日本語学科で学んだことを創造的に活用して、大きな変動の中にある現代社会の需要に応えたいと考えている。

学部等名 法学部法律学科

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf)

法学部法律学科は、法に関する学識を修め、専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf)

法律学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（法学）の学位を授与する。

1. 知識・理解

- (1) 法律学に関する基礎的な知識を身につけている。
- (2) 豊かな人間性と社会性の基となる幅広い教養を有している。

2. 思考・判断・表現

- (1) 法的思考に基づき公平かつ論理的な判断及び批判をすることができる。

3. 関心・意欲・態度

- (1) 地域、国内、国際社会の諸問題に関心とそれに取り組む意欲をもち、主体的に行動することができる。

4. 技能

- (1) 法律学に関する基礎的な知識を用いて対話および協調して問題解決を図ることができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf)

法律学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) 全学共通科目：「法学（法律学入門）A・B」を必修とするとともに、その他に豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の科目を設ける。

(2) 外国語科目：国際性豊かな人材を育成するために、1年次には「英語 A・B・C・D」を、2年次には「応用英語 A・B」、3年次には「現代英語 A・B」を必修科目として履修させ、3年間を通じて段階的に英語の読解、リスニング、会話能力を養成する。また、英語能力をさらに高めたい者のために「コミュニケーション英語 A・B・C・D」を設けるとともに、英語以外の外国語を学びたい者のために多様な外国語科目を設ける。

(3) 基礎教育科目：1年次において「英語 A・B・C・D」および「文章表現法 1A・1B」、2年次には「応用英語 A・B」、3年次には「現代英語 A・B」を必修科目として履修させることにより対話能力、文章作成能力を養成する。

(4) 専門教育科目（必修科目）：1年次には、「憲法 1A・1B」、「民法 1A・1B」、「刑法 1A・1B」を必修科目として履修させ、その基本的内容を少人数教室講義である「現代社会と法 A・B」において、復習させる。2年次には「基本法学概論 A・B」、「刑法 2A」、「民法 2A・2B・2C・2D」を必修科目として履修させる。1・2年次の専門教育必修科目で学習する内容は、法律学において最も基本的で専門教育選択科目および専門演習において学習する内容の基礎となるものであり、それらの履修を通じて法律学に関する基礎的な知識を身に付ける。

(5) 専門教育科目（選択科目）：積み上げ科目としての法律科目の着実な習得を可能とするため、専門教育選択科目は1年次から履修が可能である。「商法」、「民事訴訟法」、「刑事訴訟法」などの六法を構成する法律に関する科目をはじめ「行政法」、「国際法」、「経済法」、「労働法」、「外国法」など多種多様な科目を配置し、自らが目指す職業や興味関心にあわせて、履修を行うことができる。

(6) 専門演習：専門演習では、専門教育科目で学習した内容をより深く専門的に学ぶことにより、法律学の知識を深めると同時に、発表、討論などを通じて法的思考、論理的判断力を身に付ける。

2. 教育方法

(1) 主体的な学びを促進するために、一部の専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。

(2) 「現代社会と法」「基本法学概論」「文章表現法」「英語」においては、プレイスメントテストによりクラス分けを行った少人数クラスによる細やかな指導を行い法律学の基本を徹底的に身に付ける。

(3) 専門演習においては、学生が問題点を自ら発見し、それを探求・解決する知的喜び経験できるように指導する。

3. 評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、法学部法律学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPAの結果によって測定するものとする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

法律学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

(1) 法律学を学ぶのに十分な基礎的学力（国語、英語、地理、歴史、公民など）を有している。

(2) 社会のルールを守ることの重要性を理解している。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 相手の立場に立ち、異なった価値観を考慮することができる。

(2) 物事を論理的に考えることができる。

<p>(3) 自分の意見を表明し、文章又は口頭で表すことができる。</p> <p>(4) 知的好奇心をもち、情報収集をすることができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 地域、国内、国際社会の諸問題に対する関心を有している。</p> <p>(2) 積極的に社会と関わり、他者と交流を広げることができる。</p> <p>(3) 根気強く地道な努力ができる。</p>
<p>学部等名 法学部政治学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>法学部政治学科は、政治学に関する学識を修め、専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>(概要)政治学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（政治学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 国際機関・国・地方自治体などの政策の意図と内容を正しく把握することができる。</p> <p>(2) 地域の問題から国際社会の課題にいたる様々なレベルにおける政治の動きを理解することができる。</p> <p>2. 思考・判断・表現</p> <p>(1) 修得した知識を活用しながら、科学的アプローチに基づき、政治現象を分析する能力を身につけている。</p> <p>3. 関心・意欲・態度</p> <p>(1) 修得した知識と技能をもって、地域社会、国家、国際社会における課題を自ら発見し、その解決に取り組むことができる。</p> <p>4. 技能</p> <p>(1) よりよい政治や社会のあり方について、広い視野に立って自分とは異なる意見を持つ人とも議論することができる。</p> <p>(2) 在学期間を通じて獲得した語学力を活用し、様々な分野で活躍・貢献できる力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>政治学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 共通教育においては、必修科目「政治学」と「憲法」の履修を通して、政治学を学ぶ上で必要な基礎概念や社会の仕組み、現代日本政治についての基礎知識を学習するとともに、政治という分野そのものに関する知的好奇心を深める。</p> <p>(2) 1年次から、「政治外交史」および海外の「地域」に関する専門科目を履修できる。時代と地域によってさまざまに異なった姿をもつ政治の実態についての知識や関心を広げる。</p> <p>(3) 1年次から、「法律学系列」「経済学系列」「情報学系列」の科目を履修できる。政治を学ぶ上で重要な分野に関する知識を身につける。</p> <p>(4) 2年次からは、「理論」に関する専門科目、「行政」に関する専門科目として「地方自治論」、そして幅広いテーマを取り扱う「展開政治学」の科目を履修できる。「海外地域政治研究」とあわせ、地域社会から国内政治、国際社会に至るさまざまなレベルにおける政治の動きに対する理解を深め、自らの関心のある専門分野を発見する。</p> <p>(5) 3年次からは、「国際」に関する専門科目、および「行政」に関する専門科目として「行政学」「公共政策論」を履修できる。このほか、「法律学系列」「経済学系列」「情報学系列」の諸科目においても、さらに広範な知識を身につけることができる。</p> <p>(6) 必修科目の「英語」及び選択科目の「ドイツ語」・「フランス語」等の履修を通して、</p>

<p>外国語の習得に対する意欲を深め、外国語によるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 入門演習においては、自分の考えを他人に伝え、意見交換する能力を身につけるとともに、レポートの作成を軸として、大学での「学び」に必要な文章力をはじめとする技能を習得する。</p> <p>(2) 2年次に設置されている「基礎演習」で、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた教育方法により、少人数で議論しながら学習を進めることで、自分と異なる意見に触れるとともに、自分の意見を他人に伝える能力をさらに高める。</p> <p>(3) 3・4年次の専門演習では、自らの関心のある分野についての学びを深め、他人との意見交換を通じて多様な課題を発見し、分析し、その解決に取り組む能力を身につけるとともに、その成果を他人に報告し、書き表す能力を養う。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、政治学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の測定結果を用いるものとする。</p> <p>(2) 2年次から3年次に進級するにあたり、最低取得単位を設けることにより、最低限必要な知識を習得しているかを判断する。</p> <p>(3) 専門演習を担当する教員は、当該演習の履修学生が学修した成果について論文、レポートなどの方法により評価を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>政治学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 政治学を学ぶのに必要な社会科学科目の内容に興味を持ち、十分な学力を身につけている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 知的好奇心を持って、社会の仕組みについて考えることができる。</p> <p>(2) 自分の考えていることを他人に伝えたり、意見交換しようと努力できる。</p> <p>(3) 自分の考えを伝え、他人の考えを理解するために必要な文章力を身につけている。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 自身の住む地域から世界の政治や社会の動きまで幅広い関心を持っている。</p> <p>(2) 外国語の習得にも意欲的で、文化や生活習慣の壁を乗り越え、活躍できる。</p>

<p>学部等名 国際関係学部国際関係学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>国際関係学部国際関係学科は、社会科学の視点でアジア地域研究を修め、多文化共生の実現と広義の国際協力や国際交流に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>国際関係学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に卒業の認定を行い、学士（国際関係学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>(1) アジア諸地域の歴史・政治・経済・社会・芸術・文化に関する基本的かつ広範な知識を修得している。</p> <p>(2) 異文化への理解を基礎に、特定の専攻分野に関する専門的知識を修得している。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>(1) 卒業論文等において、問題の発見・設定からその解決方法の提示にいたる一連の研究に取り組み、一定の成果をあげている。</p> <p>(2) 異文化理解や専攻分野に関する専門的な知識を基礎に、国際社会に生起する諸事象を多面的に考察し、自らの意見を論理的に構成することができる。</p>

3. 技能・表現

- (1) 教育研究上の目標の実現に相応しい英語およびアジア言語の運用能力（コミュニケーション能力）を有している。
- (2) ICT や数量的スキル等を活用して、諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。
- (3) ロジカルシンキングやクリティカルシンキングをふまえた文章表現や口頭表現、ディスカッションができる。

4. 関心・意欲・態度

- (1) 生涯学習を視野に、専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために主体的かつ計画的に行動することができる。
- (2) 地域社会の一員としての倫理観と責任感をもって、背景や意見の異なる他者と協調・協働して問題解決にあたることができる。
- (3) 国際社会の一員として、現代世界の諸問題と持続的に向き合い、多文化共生社会の実現に向けて行動する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

国際関係学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) アジア諸地域に関する基本的な知識を修得させるため、国際関係論を必修科目とし、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの4地域の地域研究科目10科目20単位以上を選択必修とする。
- (2) アジア地域や異文化に関する学修を、特定の専攻分野の選択やキャリア形成につなげるために、「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」の三つのクラスター（科目群）を設置する。
- (3) 専門演習（3年次）と卒業論文演習（4年次）を必修科目とし、4年間の学びの集大成としての卒業論文の作成に取り組みさせる。
- (4) 外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、「Global English」（1年次必修）と言語文化講座（8言語）を開設し、現地研修や海外留学の奨励、各種検定の単位認定制度等によって外国語学習を支援する。
- (5) 諸課題の解決に必要な情報の収集・整理・分析、報告や討論の技術を実践的に学ばせるために、1年次のチュートリアル、2年次の基幹演習Ⅰ・Ⅱを必修科目として開設する。
- (6) 特定の専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために、クラスター科目に加え、より実践的な「企業と雇用」「インターンシップ準備講座」等を開設する。
- (7) アジア理解の基礎となる幅広い教養を培うために、全学共通科目と外国語科目（ドイツ語・フランス語）を選択科目として配置する。

2. 教育方法

- (1) 国際社会に生起する諸事象を多面的に考察する力をつけるために、地域研究科目やクラスター科目等においても、課題解決型学習（PBL・TBL）やキャップストーン（CS）、フィールドワークやワークショップ等を活用した主体的な学び（アクティブ・ラーニング）の場を提供する。
- (2) 社会人として必要とされる責任感や倫理観、チームワークやリーダーシップ等のジェネリックスキルを習得させるために、DACIX（Daito Asian Communication Index）制度により「学生による企画・実行・参加型の活動」や国内外におけるボランティア活動を奨励する。
- (3) 多文化共生社会の実現に向けた意欲や行動力を涵養するために、「国際協力・多文化共生」をクラスターに配置し、また「現地研修」や「インターンシップ・イン・アジア」「留学」等により現地体験型学習を推奨する。

3. 評価方法学位授与方針に掲げられた各種能力の形成的評価を、以下のような方法を用いて複合的に行う。

- (1) 単位取得状況および GPA

<p>(2) 各種検定（資格）等の取得状況</p> <p>(3) 学習到達度確認レポート等</p> <p>(4) 各種ルーブリック（情報リテラシー・アカデミックリテラシー・キャリアデザイン）を活用した演習指導教員による個人面談</p> <p>(5) 「卒業論文ルーブリック」に基づく卒業論文審査</p> <p>(6) 外部アセスメント（JCSS 等）</p> <p>(7) 学部の卒業時アンケート（卒論提出時に実施）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>国際関係学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 高等学校で履修する国語、外国語、地理歴史、公民等について、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 物事を多面的かつ批判的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。</p> <p>(2) 主体的に課題を発見し、異なる意見をもった他者と、その解決に向けて協働で取り組むことができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) アジア諸地域の政治や経済に対して強い興味関心をもっている。</p> <p>(2) 留学や現地研修など、現地体験型学習に積極的に参加する意欲をもっている。</p> <p>(3) グローバル社会の一員として、広い意味の国際協力や国際交流に貢献する意欲をもっている。</p>
<p>学部等名 国際関係学部国際文化学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>国際関係学部国際文化学科は、比較文化の視点でアジア地域研究を修め、多文化共生の実現と広義の国際協力や国際交流に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>国際文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に卒業の認定を行い、学士（国際文化学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>(1) アジア諸地域の歴史・政治・経済・社会・芸術・文化に関する基本的かつ広範な知識を修得している。</p> <p>(2) 異文化への理解を基礎に、特定の専攻分野に関する専門的知識を修得している。</p> <p>2. 思考・判断</p> <p>(1) 卒業論文等において、問題の発見・設定からその解決方法の提示にいたる一連の研究に取り組み、一定の成果をあげている。</p> <p>(2) 異文化理解や専攻分野に関する専門的な知識を基礎に、国際社会に生起する諸事象を多面的に考察し、自らの意見を論理的に構成することができる。</p> <p>3. 技能・表現</p> <p>(1) 教育研究上の目標の実現に相応しい英語およびアジア言語の運用能力（コミュニケーション能力）を有している。</p> <p>(2) ICT や数量的スキル等を活用して、諸課題の解決に必要な情報を収集・整理・分析できる。</p> <p>(3) ロジカルシンキングやクリティカルシンキングをふまえた文章表現や口頭表現、ディスカッションができる。</p> <p>4. 関心・意欲・態度</p> <p>(1) 生涯学習を視野に、専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために主体的かつ計画的に行動することができる。</p>

(2) 地域社会の一員としての倫理観と責任感をもって、背景や意見の異なる他者と協調・協働して問題解決にあたることができる。

(3) 国際社会の一員として、現代世界の諸問題と持続的に向き合い、多文化共生社会の実現に向けて行動する意欲を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

国際文化学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

(1) アジア諸地域に関する基本的な知識を修得させるため、比較文化論を必修科目とし、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの4地域の地域研究科目10科目20単位以上を選択必修とする。

(2) アジア地域や異文化に関する学修を、特定の専攻分野の選択やキャリア形成につなげるために、「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」の三つのクラスター（科目群）を設置する。

(3) 専門演習（3年次）と卒業論文演習（4年次）を必修科目とし、4年間の学びの集大成としての卒業論文の作成に取り組ませる。

(4) 外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、「Global English」（1年次必修）と言語文化講座（8言語）を開設し、現地研修や海外留学の奨励、各種検定の単位認定制度等によって外国語学習を支援する。

(5) 諸課題の解決に必要な情報の収集・整理・分析、報告や討論の技術を実践的に学ばせるために、1年次のチュートリアル、2年次の基幹演習Ⅰ・Ⅱを必修科目として開設する。

(6) 特定の専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために、クラスター科目に加え、より実践的な「企業と雇用」「インターンシップ準備講座」等を開設する。

(7) アジア理解の基礎となる幅広い教養を培うために、全学共通科目と外国語科目（ドイツ語・フランス語）を選択科目として配置する。

2. 教育方法

(1) 国際社会に生起する諸事象を多面的に考察する力をつけるために、地域研究科目やクラスター科目等においても、課題解決型学習（PBL・TBL）やキャップストーン（CS）、フィールドワークやワークショップ等を活用した主体的な学び（アクティブラーニング）の場を提供する。

(2) 社会人として必要とされる責任感や倫理観、チームワークやリーダーシップ等のジェネリックスキルを習得させるために、DACIX（Daito Asian Communication Index）制度により「学生による企画・実行・参加型の活動」や国内外におけるボランティア活動を奨励する。

(3) 多文化共生社会の実現に向けた意欲や行動力を涵養するために、「国際協力・多文化共生」をクラスターに配置し、また「現地研修」や「インターンシップ・イン・アジア」「留学」等により現地体験型学習を推奨する。

3. 評価方法

学位授与方針に掲げられた各種能力の形成的評価を、以下のような方法を用いて複合的に行う。

(1) 単位取得状況および GPA

(2) 各種検定（資格）等の取得状況

(3) 学習到達度確認レポート等

(4) 各種ルーブリック（情報リテラシー・アカデミックリテラシー・キャリアデザイン）を活用した演習指導教員による個人面談

(5) 「卒業論文ルーブリック」に基づく卒業論文審査

(6) 外部アセスメント（JCSS 等）

(7) 学部の卒業時アンケート（卒論提出時に実施）

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

<p>国際文化学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 高等学校で履修する国語、外国語、地理歴史、公民等について、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 物事を多面的かつ批判的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。</p> <p>(2) 主体的に課題を発見し、異なる意見をもった他者と、その解決に向けて協働で取り組むことができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) アジア諸地域の文化や歴史に対して強い興味関心をもっている。</p> <p>(2) 留学や現地研修など、現地体験型学習に積極的に参加する意欲をもっている。</p> <p>(3) グローバル社会の一員として、広い意味の国際協力や国際交流に貢献する意欲をもっている。</p>
--

<p>学部等名 経営学部経営学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p> <p>経営学部経営学科は、経営学の基礎的・専門的知識を教授し、情報教育、語学教育、インターンシップなどの実践教育を通じて、経営学、会計学、知識情報マネジメントおよびマーケティングに関する専門的な知識と能力を身につけ、広い視野から現代社会を分析するとともに、自主的に判断できる力をもった人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p> <p>経営学部経営学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（経営学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 経営・会計・知識情報マネジメント・マーケティングに関する専門的知識を修得している。</p> <p>(2) 社会状況や社会変化に対して学際的な理解を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) グローバルな課題を発見・分析・解決する能力と意欲を有している。</p> <p>(2) 現代の人間や社会に対する理解を深め、専門領域以外の問題にも積極的に挑戦できる能力を有している。</p> <p>(3) 社会や企業に必要な情報を収集し、自らの考えを分かりやすく伝え、意見を交わすことができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 社会や企業のニーズを把握し、多様な考え方を持つ人々と協働しながら主体性を持って取り組むことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p> <p>経営学部経営学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 初年次より、基礎教育の科目を必修として配置する。選択科目として学部・学科を越えた全学共通科目や外国語科目等を設ける。</p> <p>(2) 2年次からは、経営学・会計学・知識情報マネジメント・マーケティングの4コースを設け、ビジネスに関するきめ細やかな理論的・実証的指導を行う。</p> <p>(3) 3年次からは、さらにそれらの知見に基づき実践的な課題にも対応できるように専門演習科目を配置する。</p>

<p>(4) グローバルで革新的な学問分野を取り入れ、企業活動・ビジネス環境に対応した科目を配置する。</p> <p>(5) 実務家や企業家を招き、社会の課題を実践的に解決する講座を開講する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 少人数のゼミを有効活用し、双方向の教育を実施する。</p> <p>(2) 実務経験者との交流を通じた実践的な課題解決の教育を行う。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 経営学部における卒業要件達成状況、単位取得状況を観察し、学位授与方針で掲げられた能力を評価する。</p> <p>(2) 学生の成長度合いを把握し、自主的な活動が行われているかを評価する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>経営学部経営学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 経営学に関わる分野を学ぶための基礎学力を持っている。</p> <p>(2) 学際的に理解しグローバルな課題を学ぶための基礎学力を持っている。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 自分の考えを的確に表現し、わかりやすく伝えることができる。</p> <p>(2) 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。</p> <p>(3) 実務家を目指し、専門的知識を学習する意欲を持っている。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 自分で目標を設定し、それを達成するために、着実に前進する積極的な気持ちを持っている</p>

<p>学部等名 環境創造学部環境創造学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>環境創造学部環境創造学科は、主として社会科学的な観点から地球および人間の環境に関する知識と手法を修め、その課題の発見と解決に創造的・実践的に取り組める人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>環境創造学科は、卒業研究を含む所定の単位を修得し、環境問題や生活問題を解決するために、以下のような実践的で創造的な手法を身に付けていると認められる学生に卒業を認定し、学士（環境創造学）の学位を授与する。</p> <p>1. 社会科学を基礎に置き、既存の考え方に疑問を呈して、問題を発見し、解決していく能力を修得している。</p> <p>2. 環境問題や生活問題を分析し、その課題と解決法を発表できるコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を修得している。</p> <p>3. 社会貢献に役立つ語学・情報処理能力を身に付けている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>環境創造学科は、私たちの生活環境を改善するために必要な具体的改革案を打ち出せるような能力を育成するため、理論的・実践的な学問を積み重ねていく。1年生の入門ゼミを必修とし、2年生から都市環境・福祉環境・環境マネジメントのコースに分かれ、各自の関心に応じて専門性を高めると同時に、複合的な科学を学ぶ。そのために、以下のような方針でカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 複眼的な考察力を養うために、現場主義・実践主義・コミュニケーション主義をモットーとした教育を行う。</p> <p>2. 社会科学に不可欠な調査方法および実社会において必要な情報処理・プレゼンテーシ</p>

<p>ヨシ技法等を学ぶ。</p> <p>3. エコシステムについての複合的・統合的知識を修得する。</p> <p>4. ゼミを必修として、少人数教育で、プレゼンテーション等を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、かつ専門性の向上を図る。</p> <p>5. 地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成するために、国内及び海外で研修等を行う。</p> <p>6. 各自が問題を設定し、卒業研究を完成させる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：</p>
<p>※環境創造学部は 2018 年度募集停止</p>

<p>学部等名 スポーツ・健康科学部スポーツ科学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>スポーツ・健康科学部スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する学識を修め人間性豊かなスポーツ指導と健康づくりの能力を有する人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>スポーツ科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（スポーツ科学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 豊かな人間性と社会性の基となる幅広い教養を有し、スポーツ科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。</p> <p>(2) スポーツ科学に関する実践的知識・技能を修得し理解している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) スポーツ現場のさまざまな課題に対して、スポーツ科学に関連する研究方法を用いて考察することができる。</p> <p>(2) スポーツをはじめさまざまな場面において、自ら判断して科学的・体系的に指導することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) スポーツ科学に関する課題を探究し、主体的・継続的に学習することができる。</p> <p>(2) 社会の一員として自分の役割を自覚し、与えられた課題に対して、熱い情熱、高い行動力、強い責任感をもって対処することができる。</p> <p>(3) 多様な社会のニーズを理解し、人間がもつ様々な能力を受容し、尊重することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>スポーツ科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 1年次には、必修科目のスポーツ科学概論、生理学や解剖学などを通してスポーツ科学の基礎を学習し、2年次以降でスポーツ科学の専門的な各種分野を、3年次には各演習科目およびゼミナールにおいて専門的に学習する。</p> <p>(2) 実技科目として、1年次には陸上競技、水泳、器械運動を必修とし、2年次では各種球技系科目（基礎）を学習し、3年次の各種球技系科目（発展）さらにはコーチングへと発展させる。</p> <p>(3) 外国語科目として英語を1～2年次において必修とし、加えて中国語、韓国語、フランス語及びドイツ語の中から1つを選択することにより、外国語教育を通して、異文化の理解に加えて自国の言語や文化を客観的に見直すとともに、バランスのとれた国際感覚を養う。</p> <p>(4) 専門科目とは別に、1年次の「フレッシュマンセミナー」を通じて大学生として身につ</p>

けてほしい基礎的能力を、2年次には「スポーツキャリアセミナー」により各自の進路について考え、目的を達成するために自ら行動する能力を養う。

(5) 4年間を通じて、全学共通科目を履修することにより幅広い教養を修得する。

2. 教育方法

(1) 主体的な学びを促進するために、特に講義系の専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。

(2) 3年生～4年生においては、ゼミナールを選択でき、より主体的な学習に取り組む。

(3) 特に3年生では、スポーツボランティア活動への参加を積極的に推奨する。

3. 評価方法

(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、スポーツ科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。

(2) 4年間の総括的な評価として、卒業時の学生によるアンケート調査によって評価する。

(3) 教員採用試験受験者に関しては、1次試験合格者数、2次試験合格者数さらには臨時任用等の採用数などを考慮する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

スポーツ科学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

(1) スポーツ科学を学ぶための十分な基礎学力及び実技能力を有している。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 自己の考えを明確に表現し、他者の意見を素直に聞くことができる。

(2) 課題に対して論理的に考察することができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) スポーツ科学、スポーツ指導に強い関心を有している。

(2) 社会の諸課題に対して自ら学ぼうとする高い学習意欲を持ち、継続的な努力ができる。

(3) 人と人のつながりの重要性を理解し、他者を積極的に理解しようとする態度をもっている。

学部等名 スポーツ・健康科学部健康科学科

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

スポーツ・健康科学部健康科学科は、生命の尊厳に基づいた生活の質を理解し、医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）

健康科学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（健康科学）の学位を授与する。

1. 知識・技能

(1) 社会人として高いモラルと教養を有し、臨床検査学、食品科学、環境科学分野を含む健康科学に関する専門知識や技能を総合的・学問的に理解している。

(2) 健康科学に関して修得した知識や技能を実践できる。

2. 思考力・判断力・表現力

(1) 健康科学の現場の様々な課題に対して、健康科学に関連する手法を用いて考察することができる。

(2) 学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を獲得できる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

(1) 健康科学に関する課題を探求し、主体的・継続的に学習することができる。

(2) 教養と高い倫理性を備え、グローバルな視野で異文化を理解し、批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に述べることができる。

(3) 医療と保健の幅広い分野で国民の健康づくりに貢献するために、与えられた課題に対

<p>して、さらなる向上心や責任感を持って対処することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>健康科学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。そして、本学の教育理念に基づき、医療、食品、環境の分野のスペシャリストを育成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 基礎教育科目・語学では、必修科目の生命倫理学、英語 A/B、および人文・社会系の全学共通科目（自由科目）を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、社会性を学ぶ。</p> <p>(2) 専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学 A、生理学、分子生物学の必修科目に加えて、さらに免疫学、血液学、病理学などの基礎医学領域から臨床医学総論、臨床病態学 A、B などの臨床医学領域に及ぶ科目についての講義・演習・実習の履修を通して、実学的かつ実践的な能力を育成する。</p> <p>(3) 初年次においては、基礎科学、基礎生物学、化学、健康科学基礎演習などのリメディアル科目において、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学ぶ。</p> <p>(4) 資格関連科目として、臨床検査技師資格取得、食品衛生管理者、食品衛生監視員、第二種作業環境測定士などの 4 つの資格に関する専門科目を配置し、各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるよう教育課程を設定する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 主体的な学びを促進するために、専門科目における各種の演習授業・実習授業を通して問題解決型のアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。</p> <p>(2)3, 4 年次においては、少人数制によるゼミの履修を積極的に促進し、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1)学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、健康科学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。</p> <p>(2) 学位授与方針で掲げられた形勢的評価として、毎学期ごとにコモンルーブリックを活用して、学年担任制およびゼミ担当教員による個人面談を実施する。</p> <p>(3) 4 年間の総括的な学修成果として、卒業論文の評価も行う。</p> <p>(4) 国家試験受験者に関して、国家試験の結果は 4 年間の認知領域の学修の明確な成果とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>健康科学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 入学後の就学に必要な基礎学力を十分有している。</p> <p>(2) 豊かな人間性と深い学識を持って現代社会の様々な健康問題に対する課題の解決に力を尽くすことができる。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。</p> <p>(2) 課題に対して多面的かつ論理的に考察することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 臨床検査学、食品科学、環境科学分野を含む健康科学に強い関心を有している。</p> <p>(2) 健康科学に対して自ら学び発展しようとする高い勉学意欲を持ち、継続的な努力ができる。</p>
<p>学部等名 スポーツ・健康科学部看護学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>スポーツ・健康科学部看護学科は、主体的に学問を探究し、人格形成とさまざまな人々への理解の涵養により、地域社会における生活者の健康回復・維持・増進に向けて創造的に</p>

活躍できる人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
看護学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（看護学）の学位を授与する。 1. 知識・技能 (1) 人間の尊厳を重んじる豊かな人間性と幅広い教養を備え、多様な文化的背景をもつ様々な看護の対象及び関係する多職種と円滑なコミュニケーションができる能力を身につけ、看護専門職としての倫理観に基づいた援助的関係、協働関係を築くことができる。 (2) 社会の要請に柔軟に対応するために必要とされる専門的知識をもち、対象者の健康レベル・健康課題を成長発達に応じてアセスメントできる。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 看護職及び在宅療養を支援する保健医療福祉専門職の役割と、スポーツ・健康科学分野の専門職との連携により、疾病・介護予防に貢献するためのアプローチについて言語化し、実践できる。 (2) 特定の健康課題のある看護の対象者が、住み慣れた地域社会で尊厳ある療養生活が送れるよう援助方法の計画立案及び具体的な援助を実践できる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 看護師としての職業的アイデンティティの基盤をつくり、専門職として生涯にわたり継続して専門的能力を向上させることの重要性を理解し、具体的なキャリアデザインを計画できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf ）
看護学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 (1) 総合基礎科目（全学共通科目・基本スキル科目）、専門基礎科目（人体の構造と機能、疾病と治療、地域社会と医療福祉）、専門科目（看護の基盤、看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅱ、看護の実践Ⅲ、看護の統合）の3つの科目群で構成する。 (2) 総合基礎科目では、深い教養と豊かな人間性を身につけ、異なる文化や考え方、多様な価値観が理解できるよう全学共通科目などで幅広い分野を学習する。また、1年次より、必修科目の基礎ゼミナール、コモンスキル、選択科目の情報処理、人間関係論などを通して基本的な技能（ジェネリックスキル）を修得する。 (3) 英語を第一外国語とし、英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ、医療英語、英語ゼミナールを1～2年次を中心に学習する。医療英語では、外国人患者とのコミュニケーションスキルを、英語ゼミナールでは英語の文献抄読に必要なスキルを学習する。第二外国語として選択科目の中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語を設定する。 (4) 専門基礎科目では、さまざまな健康状態や発達レベルにある看護対象者を全人的に理解するため保健・医療・福祉の基礎とあり方を学習する。必修科目として、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅱ、人間と栄養、生化学、微生物学、疾病・治療学Ⅰ～Ⅵ、病態論、薬理学、郷土論（埼玉学）、公衆衛生学、保健医療統計学、医療情報学、保健医療福祉制度論などを1～3年次に配置する。また、社会福祉学、生命倫理学を選択科目として配置する。 (5) 専門科目では、看護の基盤を学習した上で、看護の実践Ⅰ（理論と方法）、看護の実践Ⅱ（臨地実習）、看護の実践Ⅲ（看護の発展）において対象や場に応じた看護学を学習し、さらに、看護の統合では体系的に看護学を学習する。 2. 教育方法 (1) 主体的な学びを促進するために、ICT教育やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を積極的に採用する。病棟実習や看護技術演習などにおいては、タブレット端末にインストールした電子書籍を利用した学習を支援する。動画撮影・再生を通じた看護技術のフィードバックやクリッカー機能を用いた学習到達度の振り返りにより、インタラクティブ

<p>な教育を実施する。</p> <p>(2) 教材を用いた自学自習・PBL型授業を実施する。批判的思考力（態度、経験、意識調査を背景）を評価した上で、ジェネリックスキル（思考力・文章作成能力など）、社会人基礎力、協調的問題解決力（チームで問題を解決する力）の育成を促す。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、看護学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト、OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）などの結果によって測定する。</p> <p>(2) 国家試験受験者に関しては、4年間の認知領域の学修成果の一つとして、国家試験の結果によって測定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>看護学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 入学後の学修に必要な基礎学力としての知識を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 物事を多方面から論理的に思考することができる。</p> <p>(2) 自分の考えを的確に表現し、言語化することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 看護の対象者である人間が好きで、その健康に関わる諸問題について、深い関心と倫理観を備え、看護を学びたいという意欲がある。</p> <p>(2) 道徳的で積極的に他者とのかかわり対話ができる態度を有している。</p>

<p>学部等名 社会学部社会学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>社会学部社会学科は、問題の発見、多様性への理解、実証的調査能力、理論的な思考、社会を構想し提言する能力などを備え、現代社会の構成員として一定の役割を果たせる人材の養成を目的とする</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>社会学部社会学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（社会学）の学位を授与する。</p> <p>1. 知識・技能</p> <p>(1) 外国語や情報処理、社会人としての一般教養にくわえ、社会学の基本的な知識および、社会調査にかんする知識や調査実施の経験を有している。</p> <p>(2) 多様性がもたらす豊かさとともに、そこから生ずる諸問題についての知識を有している。</p> <p>(3) 社会学のほかに、法律学や経済学など隣接学問分野にかんする広範な知識を有している。</p> <p>(4) 社会現象や社会の諸問題を分析するためのデータ処理等にかかわる技能を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <p>(1) 当事者として考え、他者と自己を尊重しながら問題解決を模索することができる。</p> <p>(2) 地域における社会問題を解決し、地域住民とともに新たな社会を構想することができる。</p> <p>(3) 社会現象を分析し、問題の解決に向けての提言を効果的に発信することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>(1) 演習や卒業研究（卒業論文または卒業作品）を通して、社会的に意義のある研究テーマ</p>

<p>に能動的・主体的に取り組み、将来に活かす意欲がある。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf）</p>
<p>社会学部社会学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) 全学共通科目 豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の科目を設ける。</p> <p>(2) 基礎教育科目 英語、フレッシュマンセミナーなどを通して、社会生活に必要なコミュニケーション能力や協調性を養う。出来る限り専門教育科目との関連性を持たせ、学習意欲を高める。また、さらなる英語力の向上のための科目（選択必修科目）および英語以外の未修学外国語科目（選択科目）を設ける。</p> <p>(3) 専門教育科目（演習） 社会学を学ぶ学生に相応しいリテラシーを育成するため、基本技術の習得から始めて、演習を各学年に必修科目として設ける。</p> <p>(4) 専門教育科目（コース制） 専門的知識の修得と実践的な思考を養うために、十分な専門科目（選択必修科目）を配置するとともに、2年次から「多文化と共生コース」「都市と地域コース」「メディアと情報コース」を設けて、各コースに関係する専門科目を体系的に配置する。</p> <p>(5) 専門教育科目（社会調査関連） 1・2年次に、社会学の基礎知識や方法論を培うための理論と分析のためのツールを修得する社会調査関連科目「社会調査Ⅰ・Ⅱ」「社会統計入門」を設ける。さらに、2年次以降に「社会調査士」資格の取得に必要な科目を設ける。</p> <p>(6) 専門教育科目（心理学関連） マーケティング分野や教育福祉の現場で求められる人材に必要なとされる心理学関係の科目「社会心理学」、「産業心理学」などを設ける。データの裏付けを基に、人間の行動や心理を理解するための手法を学べると同時に、「認定心理士」資格取得の可能性にも配慮する。</p> <p>(7) 専門教育科目（卒業研究） 社会学部における学修の集大成として、必修科目で卒業研究（卒業論文または卒業作品）を設ける。</p> <p>(8) 問題発見・解決型学習（PBL）科目 地域社会との繋がりや企業・行政・諸団体等における就業体験などのアクティブ・ラーニングを通して、問題発見・解決にかかわる能力の向上・修得をめざした「社会調査実習」「国内研修」「海外研修」「インターンシップ」「社会活動」などの科目を設ける。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 1年次より少人数のゼミの履修を必修化し、双方向性のある教育を行う。</p> <p>(2) モバイル PC によって使用場所に制約されない学習支援環境を整え、ICT を有効に活用した授業を行う。</p> <p>(3) 主体的な学びを促進するために、一部基礎教育科目と専門科目においてアクティブ・ラーニングを通じた問題発見・解決型学習（PBL）を取り入れる。</p> <p>(4) 社会調査、社会活動、インターンシップ、国内研修、海外研修、国内留学等の実地・現場体験を重視した実習・研修科目の受講を推奨する。</p> <p>(5) キャリア形成を目指した支援科目や社会調査士および認定心理士資格取得科目等の受講を推奨する。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げた能力の形成を、社会学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定し評価する。</p> <p>(2) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業研究の評価を行う。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/file/file_policy02.pdf</p> <p>社会学部社会学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。</p> <p>1. 知識・技能 (1) 社会学を学ぶのに十分な日本語および外国語能力、現代社会に関する基礎知識、その他高校 3 年までに習得しているべき基礎的な学力を有している。</p> <p>2. 思考力・判断力・表現力 (1) 自分と社会との関係性という視点から物事を考えることができる。 (2) 他者を尊重し、その意見などに真摯に耳を傾けつつ、自分自身の意見や考えを積極的に表現することができる。</p> <p>3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 新しい社会のあり方について、強い興味と関心がある。 (2) 身近な社会問題や地域の課題について、積極的に、主体的に探究しようとする意欲をもっている。 (3) 現代社会に氾濫するメディア、各種データなどから必要な情報を選択し、活用しようとする意欲をもっている。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.daito.ac.jp/information/open/college/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
文学部	—	36人	29人	13人	2人	0人	80人
経済学部	—	20人	12人	7人	2人	0人	41人
外国語学部	—	23人	13人	9人	3人	0人	48人
法学部	—	28人	5人	2人	0人	0人	35人
国際関係学部	—	18人	6人	3人	1人	0人	28人
経営学部	—	22人	8人	3人	0人	0人	33人
環境創造学部	—	1人	0人	0人	1人	0人	2人
スポーツ・健康科学部	—	27人	18人	11人	6人	18人	80人
社会学部	—	8人	5人	7人	1人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		673人				673人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://gyouseki.jm.daito.ac.jp/dbuhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学は大学における教員の教育内容および技法の質の向上をめざしてFD委員会を設置している。この目的を達成するためにFD委員会は、大学内に設けられている各学部・大学院と連携して、以下のような活動に取り組んでいる。</p>							

- ・ 本学の教育システムの分析およびこれに対する提言
- ・ 教育効果に関する諸調査の企画、実施および分析
- ・ FDに関する広報啓発活動（大学内外の情報収集とその普及）
- ・ FDに関する講演会、研究会など企画および開催
- ・ 「学生による授業評価」の実施、授業評価結果の分析、授業評価結果報告書の作成
- ・ 授業評価結果の有効活用など、授業改善の取り組みの支援

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	630人	609人	96.7%	2,340人	2,418人	103.3%	若干名	1人
経済学部	370人	355人	95.9%	1,470人	1,539人	104.7%	若干名	0人
外国語学部	360人	360人	100.0%	1,470人	1,549人	105.4%	若干名	0人
法学部	375人	374人	99.7%	1,500人	1,583人	105.5%	若干名	1人
国際関係学部	200人	202人	101.0%	800人	863人	107.9%	若干名	2人
経営学部	365人	328人	89.9%	1,445人	1,515人	104.8%	若干名	0人
環境創造学部	-	-		330人	363人	110.0%	-	-
スポーツ・健康科学部	325人	311人	95.7%	1,075人	1,102人	102.5%	若干名	1人
社会学部	200人	193人	96.5%	400人	394人	98.5%	-	-
合計	2,825人	2,732人	96.7%	10,830人	11,326人	104.6%	若干名	5人

(備考) 環境創造学部は2018年度募集停止。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	
			就職者数	その他
文学部	522人 (100%)	10人 (1.9%)	418人 (80.1%)	94人 (18.0%)
経済学部	362人 (100%)	0人 (0.0%)	324人 (89.5%)	38人 (10.5%)
外国語学部	374人 (100%)	6人 (1.6%)	301人 (80.5%)	67人 (17.9%)
法学部	379人 (100%)	2人 (0.5%)	317人 (83.6%)	60人 (15.8%)
国際関係学部	205人 (100%)	4人 (2.0%)	176人 (85.9%)	25人 (12.2%)
経営学部	369人 (100%)	2人 (0.5%)	323人 (87.5%)	44人 (11.9%)
環境創造学部	175人 (100%)	1人 (0.6%)	153人 (87.4%)	21人 (12.0%)
スポーツ・健康科学部	217人 (100%)	7人 (3.2%)	183人 (84.3%)	27人 (12.4%)

社会学部	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)	-人 (%)
合計	2,603人 (100%)	32人 (1.2%)	2,195人 (84.3%)	376人 (14.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p>企業</p> <p>大成建設(株) 積水ハウス(株) (株)伊藤園 (株)ツムラ パナソニック(株) (株)東芝 (株)リコー (株)安川電機 出光興産(株) 東京ガス(株) (株)NTT ドコモ 東日本旅客鉄道(株) 日本航空(株) 全日本空輸(株) (株)三越伊勢丹 (株)みずほ銀行 (株)三井住友銀行 (株)ゆうちょ銀行 (株)プリンスホテル 慶應義塾大学病院 順天堂大学医学部付属順天堂医院 国家公務員 地方公務員 幼稚園教諭 小学校教諭 中学校教諭 高校教諭 特別支援教諭</p> <p>進学</p> <p>大東文化大学大学院 東京外国語大学大学院 弘前大学大学院 法政大学大学院 上智大学法科大学院 学習院大学法科大学院 和光大学大学院 早稲田大学大学院 日本大学大学院 筑波大学大学院 女子栄養大学大学院</p>				
(備考) 環境創造学部は2018年度募集停止。社会学部は2018年度新設				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	594人 (100%)	483人 (81.3%)	39人 (6.6%)	72人 (12.1%)	0人 (0.0%)
経済学部	420人 (100%)	352人 (83.8%)	37人 (8.8%)	30人 (7.1%)	1人 (0.2%)
外国語学部	432人 (100%)	346人 (80.1%)	39人 (9.0%)	47人 (10.9%)	0人 (0.0%)
法学部	420人 (100%)	346人 (82.4%)	41人 (9.8%)	33人 (7.9%)	0人 (0.0%)
国際関係学部	234人 (100%)	187人 (79.9%)	22人 (9.4%)	24人 (10.3%)	1人 (0.4%)
経営学部	407人 (100%)	346人 (85.0%)	37人 (9.1%)	24人 (5.9%)	0人 (0.0%)
環境創造学部	195人 (100%)	169人 (86.7%)	13人 (6.7%)	13人 (6.7%)	0人 (0.0%)
スポーツ・健康科学部	226人 (100%)	211人 (93.4%)	3人 (1.3%)	12人 (5.3%)	0人 (0.0%)
社会学部	-	-	-	-	-
合計	2,928人 (100%)	2,440人 (83.3%)	231人 (7.9%)	255人 (8.7%)	2人 (0.1%)
(備考) その他は退学後再入学のため修業年限を超えた者					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)

本学で開講する全ての授業科目における授業計画(シラバス)については、本学 HP「Webシラバス」で公表している。授業計画(シラバス)を公表することは、シラバスが学生の学習を支援するための重要な指針であり、また、個々人の学習への動機づけとなるばかりでなく、本学が掲げるディプロマ・ポリシーを実現するうえでも大きな役割を担うことである。また、シラバスの公表は本学の教育内容を広く社会へ発信するものでもある。

シラバス記載項目は以下のとおりである。

担当教員名、曜日・時限・開講期、期間、学年、単位、開講キャンパス、概要、到達目標、形態、授業計画、授業外の学習、教科書・参考文献など、成績評価の方法・基準、履修上の注意、連絡先・連絡方法 など

シラバス(授業計画)の作成・公表時期については、授業科目開講年度の前年12月上旬に各教員へシラバス執筆依頼を行う。その後、作成されたシラバスについては、各学部においてシラバス記載項目の第三者チェックを行い、3月後半の在学生ガイダンス実施前までに、本学 HP 上にて公表する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各授業科目の授業計画(シラバス)に記載された「成績評価の方法・基準」および本学アセスメント・ポリシー(※)に基づき、厳格かつ適正に単位授与(または履修認定)を実施している。

<成績評価基準> 評価 S : 100-90 点、判定「合格」
評価 A : 89-80 点、判定「合格」
評価 B : 79-70 点、判定「合格」
評価 C : 69-60 点、判定「合格」
評価 D : 59 点以下、判定「不合格」
評価 E : 対象外、判定「不合格」、出席不良や試験を受けていない等で評価に値しない

※「大東文化大学アセスメント・ポリシー」

本学では、学生が主体的学びを実現し、社会人基礎力、大東学士力、全ての学問に汎用的に適用することのできる基礎教養、自身の選択した学問領域に対する創造的で、卓越した専門知識と技能を獲得した成果を可視化できる教育環境を構築し、教育改善を漸進的に実施することを目的に、全学レベル、教育プログラム(学部学科、研究科専攻)レベル、科目(個々の授業)レベルの3つのレベルにおいて、学生の学修成果の可視化を行う。可視化および評価の方法については、学修意欲の把握(出席状況など)を前提として、学生の入学時から卒業後までを視野に入れることとし、各レベルにおいて評価指標を設定し、得られた結果を恒常的に検討・分析する。

測定・評価は、各レベルにおいて、多面的に行うことを旨とし、各時点・各レベルに以下のような指標を配置する。

1. 全学レベル
4年間における学修成果の到達度を検証する。
2. 教育プログラム(学部学科、研究科専攻)レベル
学部学科、研究科専攻レベルにおける学修成果の到達度を検証する。

3. 科目（個々の授業）レベル

科目レベルにおける学修成果の到達度を検証する。

※各時点・各レベルの学修成果の評価指標は、下記 HP に掲載する。

(参考)

大東文化大学 HP 「アセスメント・ポリシー」

https://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy/file/file_assessment.pdf

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では 2016 年度入学生(編入学生を除く)から GPA を導入している。これは学修の達成度をより明確に示し、自らの履修に責任を持ち、履修申請した科目を意欲的に学修することを目的としている。

GPA 算出方法は、履修登録した科目の成績（不合格科目も対象）を 4 から 0 までの点数に置き換えて単位数を掛け、その合計を履修総単位数で割った 1 単位当たりの平均点である。GPA 算出の対象科目は、本学で履修登録した全ての卒業要件対象科目（外国人留学生科目も含む）とし、諸資格科目等および本学以外で取得し卒業要件として認定された科目（N 評価科目等）については、算出対象外とする。

また、当該年度内 GPA と入学時からの累積 GPA の 2 種類を算出し、成績通知書に表示する。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

●卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学・各学部学科においては、厳格な成績評価に基づき、基礎教育科目、専門教育科目、全学共通科目の所定の単位を修得し、豊かな教養と確かな専門的知識、高い倫理性を備えていると認定した人に学士の学位を授与する。

本学が学位授与にあたって求める能力、見識は下記のようなものである。

1. 知識・技能

1. 豊かな教養の基礎となる広範な知識を修得している。
2. 自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門知識・技能を修得し、活用することができる。

2. 思考力・判断力・表現力

1. 多文化社会に貢献できる国際的な視野と感覚、異文化への共感的想像力やコミュニケーション能力をもっている。
2. 国内外における諸課題を発見し、解決策を構想するための思考力や判断力を身に付けている。
3. 自己の意見を適切に表現・伝達できるとともに、背景や価値観の異なる他者の意見に傾聴し、議論や協働により問題解決を行うことができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

1. 生涯にわたって学び続け、国際社会や地域社会の発展に貢献する意欲と能力をもっている。
2. 社会の一員としての強い責任感、使命感、モラルをもち適切に行動できる

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本文学科	124 単位	有	1～3 年次 44 単位/

				4年次 49単位
	中国文学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
	英米文学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
	教育学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
	書道学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
	歴史文化学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
経済学部	社会経済学科	124単位	有	1,2年次 44単位/ 3,4年次 49単位
	現代経済学科	124単位	有	1,2年次 44単位/ 3,4年次 49単位
外国語学部	中国語学科	124単位	有	48単位
	英語学科	124単位	有	48単位
	日本語学科	124単位	有	48単位
法学部	法律学科	124単位	有	1～3年次 48単位/ 4年次 49単位
	政治学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
国際関係学部	国際関係学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 48単位
	国際文化学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 48単位
経営学部	経営学科	124単位 (外国人留 学生は 126単位)	有	1～3年次 44単位/ 4年次 48単位
環境創造学部	環境創造学科	126単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
スポーツ・ 健康科学部	スポーツ科学科	124単位	有	1～3年次 44単位/ 4年次 49単位
	健康科学科	124単位	有	1～3年次 48単位/ 4年次 49単位
	看護学科	124単位	有	42単位
社会学部	社会学科	124単位	有	44単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：なし		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：国家試験等資格取得状況、国別派遣留学生数、交流学生に基づく交流の記録、語学研修等 https://www.daito.ac.jp/information/open/college/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.daito.ac.jp/access/itabashi.html https://www.daito.ac.jp/access/higashimatsuyama.html https://www.daito.ac.jp/access/noriba.html
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本文学	693,000円	250,000円	246,000円	その他には実験実習費、教育充

	科				実費を含む
	中国文学 科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	環境創造学部は 2018 年度より 募集停止
	英米文学 科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
	歴史文化 学科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
	教育学科	693,000 円	250,000 円	270,000 円	
	書道学科	855,000 円	250,000 円	326,000 円	
経済学部	社会経済 学科	683,000 円	250,000 円	246,000 円	
	現代経済 学科	683,000 円	250,000 円	246,000 円	
外国語学 部	中国語学 科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
	英語学科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
	日本語学 科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
法学部	法律学科	683,000 円	250,000 円	246,000 円	
	政治学科	683,000 円	250,000 円	246,000 円	
国際関係 学部	国際関係 学科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
	国際文化 学科	693,000 円	250,000 円	246,000 円	
経営学部	経営学科	683,000 円	250,000 円	246,000 円	
環境創造 学部	環境創造 学科	733,000 円	-	246,000 円	
スポー ツ・健康 科学部	スポーツ 科学科	835,000 円	250,000 円	296,000 円	
	健康科学 科	995,000 円	250,000 円	496,000 円	
	看護学科	1,000,000 円	250,000 円	700,000 円	
社会学部	社会学科	683,000 円	250,000 円	246,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりが学習に専念できるよう、校地・校舎、施設・設備の適切な維持 管理・新設とともに、キャンパス・アメニティを充実させ、快適な学習・生活環境を整えている。特に、図書館や学園総合情報センターを中心として、学生の修学に資するための蔵書や資料、学習スペースの整備、ICT 基盤をハード面・ソフト面ともに備えるとともに、HP を通じて学生への情報提供をおこなっている。 また、本学は、経済的に修学を支える制度として各種奨学金制度を備えている。また、「障がい学生支援の基本方針」を定め、「障 がいのある学生一人ひとりの個性を尊重し、その多様なニーズに適切に応えることを通して、障がいのある学生が、一般学生と 共生しつつ、同等の教育を受けることができるようサポートし、自立して学生生活に参加できるよう支援」することを掲げている。具体的な修学支援としては、学生支援センター障がい学生支援分室を中心に、科目担当教員、学生ボランティア、学外の支援 団体の協力により、教室間の移動補助、専用機の配置、情報保障（ノートテイク、PC テイク）などを行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>キャリアセンターおよび教職課程センターを中心として、就職情報・試験情報などを提供し、キャリア形成および就職支援関連行事や試験対策講座の実施、進路・就職に関する個人相談、企業・団体等からの求人情報の提供などを実施している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮については、板橋キャンパスと東松山キャンパスに診療所・保健室を置き、医師と看護師を配置している。両キャンパスで実施する定期健康診断については、再検査あるいは面談の必要がある学生を呼び出し、健康確認および健康指導を行っている。また、学生相談については、両キャンパスに学生相談室を置いてカウンセラー（臨床心理士）、精神科・心療内科の医師が相談を受け、また各学科の専任教員が相談に応じる仕組みを作っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：https://www.daito.ac.jp/information/open/college/</p>
